記者説明会資料

平成 16 年 5 月 10 日
独立行政法人 国民生活センター

今月の原因究明テスト実施状況
（２００４年３月分）

２００４（平成１６）年３月の原因究明テストの受入件数は２件であり、テストを実施し回答した件数は、前月までの受入分を含めて５件であった。受け入れの２件は、消費生活センターおよび行政機関から依頼のものである。商品分類別の内訳は、保健衛生品１件、車両・乗り物１件である。２００３年１０月１日（独立行政法人化）以降の受入件数の累計は１８件となった。

実施・回答した５件は、消費生活センターおよび行政機関から依頼のもの５件である。商品分類別の内訳は、住居品３件、保健衛生品２件である。２００３年１０月１日（独立行政法人化）以降の実施件数の累計は２３件となった。

テスト受入件数（( )内は年度累計件数）

商品分類 分類	食料品	住居品	光熱水品	被服品	保健衛生品	教養娯楽品	車両・乗り物	土地・建物・設備	計
国民生活センター	0 (1/4)	0 (0/2)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/1)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (1/7)
消費生活センターおよび行政機関	0 (2/3)	0 (8/13)	0 (0/2)	0 (0/0)	1 (4/5)	0 (0/3)	1 (3/9)	0 (0/0)	2 (17/35)
その他	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)
計	0 (3/7)	0 (8/15)	0 (0/2)	0 (0/0)	1 (4/5)	0 (0/4)	1 (3/9)	0 (0/0)	2 (18/42)

※ 表内（ ）の数値：（2003年10月1日以降累計 / 2003年度累計）

テスト受入商品等

商品名	件数	苦情の内容
マッサージ器	1	椅子形のマッサージ器を使用後、電源を切っていたところ発熱した。
ホイール	1	純正から交換したホイールが4本とも変形した。

テスト実施件数（( )内は年度累計件数）

商品分類 分類	食料品	住居品	光熱水品	被服品	保健衛生品	教養娯楽品	車両・乗り物	土地・建物・設備	計
国民生活センター	0 (3/4)	0 (0/2)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (1/2)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (4/8)
消費生活センターおよび行政機関	0 (0/1)	3 (12/15)	0 (2/2)	0 (0/0)	2 (3/4)	0 (2/3)	0 (0/7)	0 (0/0)	5 (19/32)
その他	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)
計	0 (3/5)	3 (12/17)	0 (2/2)	0 (0/0)	2 (3/4)	0 (3/5)	0 (0/7)	0 (0/0)	5 (23/40)

※ 表内（ ）の数値：（2003年10月1日以降累計 / 2003年度累計）

テスト結果の概要

受入月	商品名	経緯及びテスト依頼内容	テスト結果の概要
’04/02	電磁調理器	電磁調理器のコンセントを入れたまま、電源を切った状態でやかんを乗せていたところ、約4時間後に発煙した。発煙した原因を調べてほしい。	苦情品の発煙原因は電源回路部に位置するコンデンサの破裂であった。当該コンデンサは発熱等による内圧上昇から破裂・電解液の噴出に至ったものと考えられる。苦情品の電源回路部は、コンセントが入ると、電源スイッチに関係なく当該コンデンサに電源電圧が印加されるものであり、電源を切ってもコンセントが入っていれば発煙する可能性が認められた。
’03/10	簡易式折りたたみベッド	簡易式折りたたみベッドを開く時にベッドの隙間に指を挟み、左手小指を切断した。この商品の危険性について調べてほしい。	苦情品は、ベッドを開く際に本体と脚のフレームが交差する個所に指があると挟まれやすい構造であった。また、これを防止するための取扱説明や注意書きが本体・取扱説明書等にはなかった。当該事故については、ベッドに敷布団が乗っていたことによる荷重の増加によって、より強く挟み込まれたと考えられる。
’03/12	乾電池式灯油ポンプ	乾電池式の灯油ポンプを使ってポリタンクからストーブに給油した。灯油ポンプが自動停止した後、ストーブからホースを抜いて放置したところ、ポリタンクに残っていた灯油が流出していた。灯油が流出した原因を調べてほしい。また、参考までに他の商品の給油自動停止機構が苦情品と違わないのか調べてほしい。	灯油の流出は、何らかの要因により電源回路がリセットされたこと（一度電源スイッチが「切」状態となり再度「入」状態となる）によるものと推定されるが、テストでは再現しなかったため、リセットされた原因は不明であった。また、苦情品の給油自動停止機構は参考品と比べて特別異なるものではなかった。
’03/11	ヘアマニキュア	ヘアマニキュアを使用後に容器を置いていたら、ユニットバスの棚が溶けたが、ヘアマニキュアのメーカーは溶けるはずがないという。再現するかどうか調べてほしい。	棚の溶けた部分はアクリル処理が施されており、アクリル樹脂は有機溶剤に侵されやすい性質を持つ。再現テストにより棚の溶解が確認され、苦情同型品の成分であるベンジルアルコールのエタノール溶液等による浸漬テストで棚の溶解が確認されたことから、苦情品に含まれるベンジルアルコールによって棚が溶解したと考えられる。
’03/11	回転ヘアブラシ	ブラシ部が回転するタイプのヘアブラシを使っていたが、ブラシに髪の毛が絡まり取れなくなった。そのブラシを強く引っ張ったところ、髪の毛が抜けてしまった。この商品が他の商品に比べて、髪の毛が絡まりやすいことがないか調べてほしい。	苦情同型品は、毛髪をカールさせる際に斜めに力が加わったり、毛髪が濡れている時に絡まりやすくなり、一旦絡まると容易にほどくことができなかったが、これらは、参考品についても同様であった。

<title>今月の原因究明テスト実施状況（２００４年３月分）</title>